
令和元(2019)年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和元(2019)年9月26日
栃木県農業環境指導センター

キクビスカシバのキウイフルーツでの発生について

1 害虫名 和名：キクビスカシバ（チョウ目スカシバ科）
学名：*Nokona feralis* (Leech)

2 発生作物名：キウイフルーツ

3 発生経過

(1) 令和元(2019)年6月にキウイフルーツのほ場において、新梢（一年生枝）及び結果母枝（二年生枝）にチョウ目の幼虫が食入し、枝からフラス（虫糞）が発生する被害が確認された（写真1、2）。幼虫の形態や被害状況からキクビスカシバであることが疑われたため、8月下旬に性フェロモン*トラップを設置し、9月に調査を行った結果、スカシバ類雄成虫が多数誘殺された（写真3、4）。フェロモントラップに誘殺された個体を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼した結果、県内初確認のキクビスカシバと同定された。

*キクビスカシバのフェロモンルアーは市販品が無く、鳥取大学中准教授から提供いただいた。

(2) 分布及び発生状況

本種のキウイフルーツでの発生は福岡県（平成16年）、愛媛県及び佐賀県（平成23年）、長崎県（平成24年）、東京都（平成29年）で確認され、それぞれの都県から特殊報が発表されている。

4 被害の特徴

5月頃から新梢の食入部にフラスの排出が見られ、食入された枝は枯死や伸長抑制等が見られる。幼虫は成育するにつれて、基部方向に移動し、直径3~4cm程度の枝での食害が起こる。類似の症状を示すコウモリガの幼虫は、比較的幅広い面積にフラスを糸でしっかりと綴っているため、本種幼虫のフラスとは一見して識別可能である。

5 形態

成虫は、開張30~40mm（雄）、38~45mm（雌）である。前翅は赤褐色、後翅は透明で、頭部、胸部、腹部は全体的に黒色であり、腹部第2、4節に黄色の帯がある（写真3）。卵は長径約1mmの平たい円盤状で小豆色をしており、中心部がややくぼんだ形状をしている。終齢幼虫の体長は約40mm、頭部及び前胸背板は赤褐色、腹部は淡い桃紫色をしている。

6 生態

成虫は、9月上旬頃から年1回発生する。卵は、葉柄基部、枝分岐部等に産み付けられる。卵で越冬し、幼虫は4月頃にふ化し、新梢に食入する。蛹化は枝の内部で行われ、羽化時には蛹殻が半分表面に出た格好で残る。スカシバガ科の昆虫で、マタタビ科の植物を加害することが確認されているのは本種のみである。本種はキウイフルーツの他に、同じマタタビ科の野生植物であるミヤママタタビやサルナシも寄主植物として記録されている。

7 防除対策

(1) フラスの出ている枝を発見した場合は、除去する。

(2) 令和元年9月20日現在、キウイフルーツで本種に使用できる登録農薬は以下のとおりである。

フェニックスフロアブル（4000 倍、3 回以内、収穫 7 日前まで、スカシバ類での登録）を幼虫のふ化時期に散布する。スカシバコン L（100 本/10a、成虫の発生初期～終期、キクビスカシバでの登録）を枝に巻付け、成虫の交尾を阻害する。



写真1 枝に食入する幼虫



写真2 被害枝から排出されるフラス



写真3 トラップに誘殺された雄成虫



写真4 トラップに多数誘殺された雄成虫

8 引用文献

窪田聖一ら(2017):植物防疫 第71巻第7号 30～33.

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。
病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センター ホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。

令和元(2019)年度病害虫発生予察特殊報第2号

令和元(2019)年11月14日
栃木県農業環境指導センター

ネギハモグリバエ別系統のねぎでの発生について

1 害虫名 和名：ネギハモグリバエ別系統
学名：*Liriomyza chinensis* Kato

2 発生作物名：ねぎ

3 発生経過

(1) 令和元(2019)年9月に宇都宮市及び下野市のねぎほ場において、葉がネギハモグリバエ幼虫に激しく食害され、白化する症状が確認された(写真1)。被害状況から他県で発生が確認されているネギハモグリバエ別系統による被害と類似していたため、農業・食品技術総合研究機構 東北農業研究センターに遺伝子解析を依頼した結果、従来の系統(以下、「A系統」と略記)とは異なる別系統(以下、「B系統」と略記)であることが判明した。県内では9月に真岡市、上三川町、高根沢町においても、ねぎほ場で同様の被害が確認されている。

(2) 分布及び発生状況

B系統の発生は、平成28(2016)年頃から京都府で被害が確認されており、令和元(2019)年に京都府、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県及び新潟県において特殊報が発出されている。

4 被害の特徴

幼虫が葉中に潜り込んで食害し、食害後は白い筋状の潜孔を形成する。A系統では1葉あたり1～数匹程度で加害するのに対し、B系統では1葉あたり10匹以上の幼虫で集中的に加害する傾向がある。B系統に食害されると、ひどい場合は葉全体が白化する。

5 形態

ネギハモグリバエのA系統とB系統は、形態による識別が困難である。両系統とも成虫の体長は約2mmであり、胸部と腹部が黒く、その他の部分は淡黄色である(写真2)。幼虫はうじ虫状で、成長すると体長約4mmに達する(写真3)。蛹は体長約3mmの褐色、俵状である。

6 生態

両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または土中で蛹となる。20～30℃の温度条件下では、B系統の発育所要日数はA系統に比べて短い。

7 防除対策

- (1) 発生を認めたら、表1を参考にして、ネギハモグリバエに適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さはほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋める等適切に処分する。

表1 ネギのネギハモグリバエ防除に使用できる主な薬剤（※はハモグリバエ類で登録）

| 農薬の名称 | 希釈倍数・使用量 | 使用時期 | 使用方法 | IRACコード |
|-------------|------------|-----------------|------|---------|
| ベストガード粒剤 | 6kg/10a | 収穫前日まで | 株元処理 | 4A |
| ダントツ粒剤 | 3～6kg/10a | 収穫3日前まで | 株元散布 | 4A |
| スタークル粒剤※ | 6～9kg/10a | 生育期 ただし、収穫3日前まで | 株元散布 | 4A |
| アルバリン粒剤※ | | | | |
| カスケード乳剤 | 4000倍 | 収穫14日前まで | 散布 | 15 |
| アフーム乳剤※ | 1000倍 | 収穫7日前まで | 散布 | 6 |
| リーフガード顆粒水和剤 | 1500倍 | 収穫7日前まで | 散布 | 14 |
| ディアナ SC | 2500～5000倍 | 収穫前日まで | 散布 | 5 |
| アグリメック | 500～1000倍 | 収穫3日前まで | 散布 | 6 |
| ベネビア OD※ | 2000倍 | 収穫前日まで | 散布 | 28 |
| ペリマーク SC※ | 400倍 | 育苗期後半～定植当日 | 灌注 | 28 |
| | 2000倍 | 収穫7日前まで | 株元灌注 | |

(令和元(2019)年10月31日現在)



写真1 激しい食害により白化した葉



写真2 ネギハモグリバエ成虫



写真3 白化した葉に食入する幼虫（赤枠内）

8 引用文献

徳丸晋・上杉龍士(2019):植物防疫 第73巻第9号 43～45.

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センター ホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。